

幕末から明治初期にかけての横浜のイメージの変化

—横浜浮世絵をテキストにして—

横 山 美和子

1. はじめに

横浜浮世絵とは、幕末・明治初期にかけて流行した、横浜に関する事柄を題材とした版画である。横浜はその開港によって、外国人や外国の風俗が大量に入り込んできた（図1）。そのため、横浜には独特のエキゾチックなイメージが形成され、当時の人々の興味をかきたてた。

そのイメージを形成し、伝達したメディアのひとつが横浜浮世絵である。絵画という表現形態は未知の世界や文物をわかりやすく表現する能力に長けており、版画は大量に生産、

流通させることが出来る。本稿の目的は横浜浮世絵をテキストに幕末から明治初期にかけての横浜のイメージとその変化をあきらかにするというものである。

2. 研究方法

横浜浮世絵の出版は1859年の開港直後から始まり、明治初期まで続いた。そのピークは1860、1861年であり、この2年間に278点発行されている。その後、急速に衰退していった。横田（1989）によると、現在確認されている横浜浮世絵の数は約840点である。

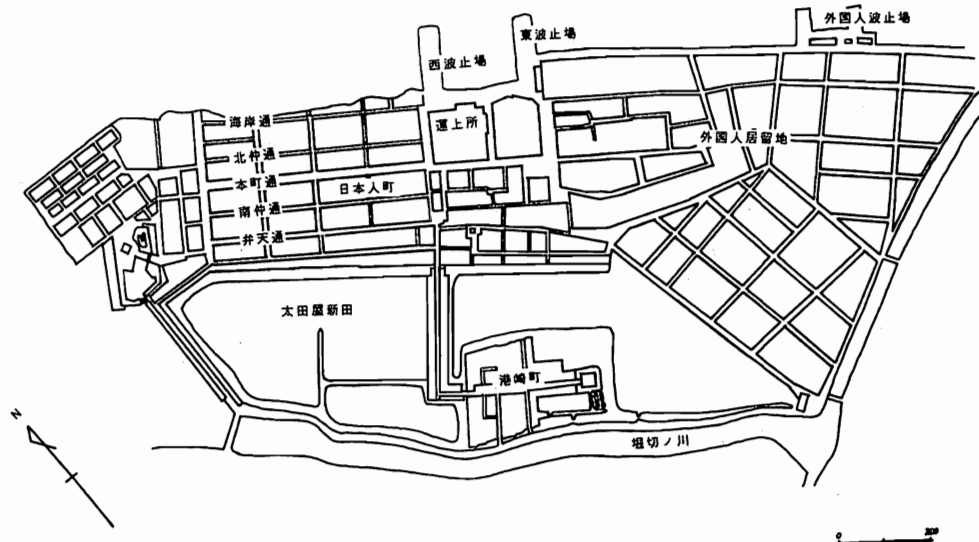


図1 1885年当時の横浜

今回使用したテキストは、従来の研究から横浜浮世絵と見なされている作品のうち、作品名に「横浜」の文字が使われているもののみ 245 点である。使用したテキストは近年の研究の集大成であり、横浜浮世絵の総目録的な意図をもって編集された『集大成横浜浮世絵』（1979）等である。

まず、個々の横浜浮世絵に共通する複数の要素を抽出し、それぞれの要素の有無をデータとした（表 1）。なお、本稿ではこれらの要素のなかに要素の数や占める割合などは含まれていない。

コード化したデータを使用して、数量化理論 2 類をおこない、その結果、従来の研究の成果である時代区分、横浜浮世絵は前期、後

期、末期に時代区分されることが高い説明率で検証された（表 2）。

その後、数量化理論Ⅱ類によって検証されたそれぞれの時代区分ごとに数量化理論Ⅲ類をおこなった。数量化理論Ⅲ類は反応パターンの似たものどうしが近い数値になるようにケースやカテゴリーを数量化する。その特徴を利用し、人文主義的な手法により各々の時代ごとの横浜のイメージの特徴を明らかにした（表 3、4、5）。また、あわせて計算の結果、それぞれの次元解の最もケース得点の高かった作品と低かった作品、つまり、最もその次元解の特徴を備えている作品をを取り上げ考察した。

表 1 数量化理論に使用した要素一覧

人物に関する要素	西洋人（洋装）男	乗り物に関する要素	馬車
	女		鉄道
	中国人（弁髪）男		リヤカー
	女	植物に関する要素	さくら
	日本人 男		松
	女		その他
建物に関する要素	黒人	場所に関する要素	波止場
	西洋建築		通り
	日本建築		室内
	折衷様式		庭
家具に関する要素	いす	背景に関する要素	山*2
	洋食器		富士山
	和食器		海
	街灯		動物
	灯ろう	その他に関する要素	国旗
乗り物に関する要素	洋帆船（黒船）		楽器 洋
	和船（木製）		楽器 和
	馬*1		鉄砲

* 1 乗馬用のもの、馬車は含まない

* 2 富士山は含まない

表2 数量化理論Ⅱ類の結果

変数名	カテゴリー	第1次元解	範 囲	第2次元解	範 囲
西洋人男性	有	0.058	0.199	0.005	0.018
	無	- 0.141		- 0.013	
西洋人女性	有	- 0.015	0.032	0.035	0.073
	無	0.017		- 0.038	
南 京 人	有	0.112	0.175	- 0.086	0.577
	無	- 0.064		0.491	
日本人男性	有	0.182	0.455	- 0.189	0.472
	無	- 0.273		0.283	
日本人女性	有	0.094	0.195	- 0.049	0.102
	無	- 0.101		0.053	
西 洋 建 築	有	0.571	0.058	0.215	0.312
	無	- 0.257		- 0.097	
日 本 建 築	有	0.134	0.233	0.038	0.065
	無	- 0.099		- 0.028	
街 灯	有	0.461	0.528	1.094	1.252
	無	- 0.067		- 0.158	
灯 籠	有	- 0.160	0.172	- 0.275	0.294
	無	0.011		0.019	
黒 船	有	- 0.051	0.086	- 0.042	0.334
	無	0.036		0.292	
和 船	有	0.059	0.098	- 0.198	0.330
	無	- 0.039		0.132	
馬	有	- 0.056	0.080	- 0.525	0.757
	無	0.025		0.232	
馬 車	有	0.215	0.274	- 0.688	0.878
	無	- 0.059		0.190	
鉄 道	有	0.953	1.091	1.473	1.686
	無	- 0.138		- 0.213	
人 力 車	有	0.357	0.465	0.047	0.061
	無	- 0.108		- 0.014	
桜	有	- 0.053	0.078	0.430	0.635
	無	0.025		- 0.205	
松	有	- 0.139	0.218	- 0.414	0.437
	無	0.078		0.023	
波 止 場	有	0.076	0.096	0.338	0.423
	無	- 0.019		- 0.085	
山	有	0.026	0.053	- 0.089	0.186
	無	- 0.027		0.097	
海	有	0.009	0.019	- 0.021	0.043
	無	- 0.010		0.022	
国 旗	有	0.111	0.177	- 0.253	0.403
	無	- 0.066		0.150	
楽 器	有	- 0.088	0.091	0.115	0.118
	無	0.003		- 0.003	
銃	有	- 0.065	0.067	0.276	0.285
	無	0.002		0.009	

3. 横浜浮世絵に描かれた 横浜のイメージ

1) 前期横浜浮世絵について

前期横浜浮世絵の第1次元解（表3）は説明率23%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると前期横浜浮世絵の第1次元解において最もケース得点が低かったケースは「港崎横浜一覧異国ことば」（図2）であった。

この作品の主題は外国人と黒船である。他のケースでも外国人のみ描かれているものが多く地理的な概念はほとんど含まれていない。

一方数値が一番高いケースが「横浜港崎町大門橋真景」（図3）であった。新しく横浜に出来た遊郭を題材としている伝統的な風景画である。

ここでは「横浜」＝外国人であると認識されており、まだ、横浜という場所のイメージは成立していないことがわかる。つまり、作者や版元、鑑賞者にとって、横浜とは自分たちの世界と全く異なった世界、つまり異界であると考えられていると考えられよう。

以下同様にして、前期横浜浮世絵の第2次元解は説明率20%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「港町らしさ」を示

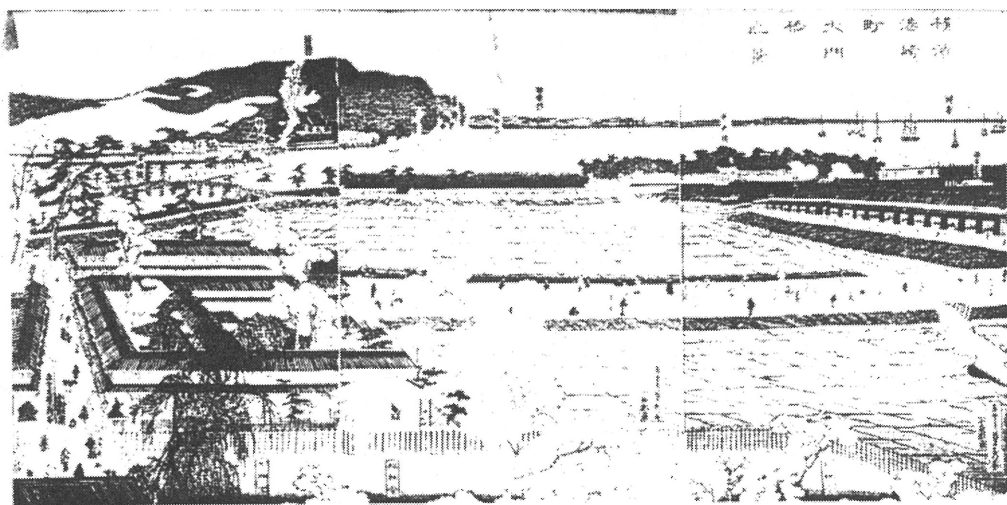
表3 前期における横浜浮世絵についての数量化理論Ⅲ類の結果

変数名	カテゴリー	カウント	第1次元解	第2次元解	第3次元解
西洋人男性	有	78	-1.279	-0.011	-0.468
	無	57	1.750	0.015	0.641
西洋人女性	有	55	-1.436	-0.659	-0.973
	無	80	0.987	0.453	0.669
日本人男性	有	50	0.531	1.944	-2.011
	無	85	-0.313	-1.144	1.183
日本人女性	有	43	0.332	1.930	-2.492
	無	92	-0.155	-0.902	1.165
日本建設	有	59	1.524	0.540	0.209
	無	76	-1.183	-0.419	-0.162
黒船	有	49	-0.132	-2.017	-2.036
	無	86	0.075	1.149	1.160
和船	有	49	1.586	-1.543	-0.308
	無	86	-0.075	0.879	0.176
桜	有	40	2.105	0.373	0.386
	無	95	-0.886	-0.157	-0.163
松	有	51	1.633	-0.022	0.145
	無	84	-0.992	0.013	-0.088
その他の植物	有	54	1.490	-0.547	0.027
	無	81	-0.994	0.364	-0.018
通り	有	33	0.659	1.914	-2.397
	無	102	-0.213	-0.619	0.776
海	有	72	0.821	-1.253	-0.974
	無	63	-0.938	1.432	1.114
国旗	有	36	-0.038	-2.097	-1.890
	無	99	0.014	0.763	0.687



一光斎芳盛「港崎横浜一覽 異国ことば」 万延元年 12 月

図 2 港崎横浜一覽異国ことば



貞秀「横浜港崎町大門橋真景」 万延元年閏 3 月

図 3 横浜港崎町大門橋真景

す次元であったと考えられる。前期横浜浮世絵の第2次元解において最もケース得点が低かったケースをみると、外国人や黒船と和船が浮かんでいる海が描かれ、国際港のようである。数値的にも黒船と和船が強く、港町というイメージが出来ていたということがいえよう。

一方最もケース得点が低かったケースでは遊郭を題材にしている。新しい繁華街としての認識である。他の高得点のケースも同様である。ここで現れる横浜には第2の江戸、吉原のイメージがあるように見える。

前期横浜浮世絵の第3次元解は説明率12%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「活気」を示す次元であったと考えられる。前期横浜浮世絵の第3次元解において最もケース得点が低かったケースでは国際貿易の現場を描いており、非常に活気がある。この次元解になってやっと日本人の姿が表れ、実際の貿易地としての横浜が現れてきた。他の高得点のケースにおいても外国との交流がある。日本の中のにぎやかでエキゾチックな都市としての横浜のイメージが出てくる。

一方、最もケース得点が高かったケースであるが、サーカスを主題にしたものではほぼ同様の図が四枚ほどあるためこのようにパターン分類されたのだと考えられる。

全体として、第1次元解や第2次元解にみられるように、この時期の作品は全体的に日本や日本人と外国との距離感がうかがえる。

実際、この時代、幕府は外国人との交流を厳禁しており、外国人居留地を与え、隔離していた。とはいえ、このような主題の作品が多くで回っているということは異国風俗が

人々の強い好奇心の対象となっていたという事である。つまり、この時代の横浜のイメージとは、一言で言えば「異国」と「日本」に分けて認識されていたといえよう。「異国」であるところの横浜には日本の土地であるという認識はない。この時期の外国人、外国の風俗を描いた作品には、日本をあらわす要素がほとんど描かれてはいない。一方、「日本」であるところの横浜もやはり、非日常社会である遊郭である。どちらにしろ、現実の場所としての横浜の姿はここにはない。しかし、これらがもつ距離感は、当時の横浜の立場と時代の空気を的確にあらわしていたのかもしれない。

2) 後期横浜浮世絵について

後期横浜浮世絵の第1次元解（表4）は説明率24%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「活気」を示す次元であったと考えられる。後期横浜浮世絵の第1次元解において最もケース得点が低かったケースは「横浜海岸異人館之図」（図4）である。この作品では路上には外国人と日本人が入り交じっており、その距離は前期に比べ確実に短くなってきている。数値においても同様である。賑やかでエキゾチックな日本の都市としての認識があるといえよう。

一方、最もケース得点が高かった作品は「東京横浜名所一覧図絵 神奈川の台見はらし」（図5）である。シリーズものの一つであり、伝統的なパターンの風景画であり、黒船だけが横浜を暗示している。

後期横浜浮世絵の第2次元解は説明率15%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「港町らしさ」を示す次元であっ

表4 後期における横浜浮世絵についての数量化理論Ⅲ類の結果

変数名	カテゴリー	カウント	第1次元数値	第2次元数値	第3次元数値
西洋人女性	有	48	- 0.919	- 0.078	- 0.672
	無	21	2.101	0.178	1.536
南京人	有	41	- 1.203	0.180	0.443
	無	28	1.762	- 0.263	- 0.649
西洋建築	有	39	- 0.937	0.385	- 1.412
	無	30	1.219	- 0.501	1.836
日本建築	有	29	0.374	- 1.255	1.627
	無	40	- 0.271	0.910	- 1.179
黒船	有	39	0.710	- 1.157	- 1.088
	無	30	- 0.923	1.504	1.414
和船	有	33	0.923	- 1.366	- 0.917
	無	36	- 0.846	1.252	0.841
馬	有	36	- 0.952	- 1.393	0.580
	無	33	1.038	1.520	- 0.633
馬車	有	33	- 1.241	- 0.925	0.144
	無	36	1.138	0.848	- 0.132
人力車	有	30	- 0.593	- 1.828	0.846
	無	39	0.456	1.406	- 0.650
通り	有	36	- 1.387	- 0.477	0.077
	無	33	1.513	0.520	- 0.084
山	有	38	0.778	0.040	- 0.346
	無	31	- 0.954	- 0.049	0.424
海	有	40	0.543	- 1.322	- 0.637
	無	29	- 0.749	1.923	0.878
国旗	有	41	- 0.490	- 0.118	- 1.481
	無	28	0.717	0.173	2.168



三代広重「横浜海岸異人館之図」 明治3年4月

図4 横浜海岸異人館之図



三代広重「東京横浜名所一覧図 神奈川の台見はらし」明治5年2月

図5 東京横浜名所一覧図 神奈川の台見はらし

たとえられる。後期横浜浮世絵の第2次元解において最もケース得点が低かったケースの中では、伝統的な日本の都市の風景に外国からの輸入文化が融合しており、そこに異質なものに対する距離感はない。つまり、現実の日本の中のひとつの都市としての横浜の姿が出てきたといえよう。

一方、ケース得点が最も低かったケースの主題は西洋建築の異人館であり、海も黒船も描かれていない。他のプラスの数値が高いケースにおいても西洋建築が主題であり、当時の人々の強い興味がうかがえる。後期横浜浮世絵の第3次元解は説明率14%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「エキゾチック」を示す次元であったと考えられる。後期横浜浮世絵の第3次元解において、

最もケース得点が低かったケースでは世界各国から商人が集まり、西洋風の町並みの国際港として繁栄している姿が描かれている。その中にも桜並木や、庭園の松などが含まれており、外国との距離感が縮まったことがわかる。異国情緒がある日本の都市に変化してきている。

一方、最もケース得点が高かったケースでは伝統的な風景画のなかに南京人と創造で描かれた鉄道が描かれている。

この時期になると横浜のイメージも複雑になってくる。にぎやかで活気のある貿易港でエキゾチックである。前期と異なり、町並みも代わり、外国人との接触が解禁され、交流も増えたため自分たちと異なる世界、異界のイメージはなくなり、より、具体的で身近な表現に変わっている。つまり、前期のように、好奇心と畏れを内包している異界としての横浜から、身近であこがれの対象となる繁栄している先進都市の横浜へ変化していったと考えられる。

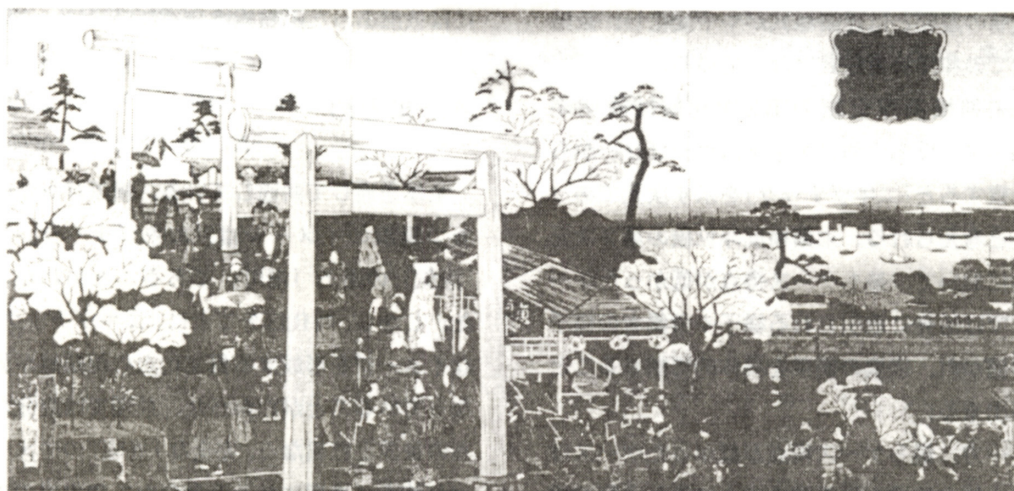
3) 末期 (1873 年以降)

末期横浜浮世絵の第1次元解(表5)は説明率23%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「港町らしさ」を示す次元であったと考えられる。末期横浜浮世絵の第1次元解において、最もケース得点が低かったケースは「横浜野毛伊勢山従海岸鉄道蒸気車之図」(図6)である。この作品には市街地の他、海、黒船、和船、鉄道も眺められ、港湾都市横浜を特徴づけるものが多く含まれている。

一方、最もケース得点が高かったケースは「武陽横浜神風楼賑之図」(図7)であった。

表 5 末期における横浜浮世絵についての数量化理論Ⅲ類の結果

変数名	カテゴリー	カウント	第1次元解	第2次元解	第3次元解
西洋人女性	有	23	- 0.481	- 1.555	- 0.311
	無	17	0.651	2.104	0.421
西洋建築	有	26	- 0.173	- 0.187	0.228
	無	14	0.321	0.348	- 0.423
日本建築	有	13	- 0.583	1.110	- 2.782
	無	27	0.281	- 0.534	1.339
街 灯	有	13	1.088	- 1.470	- 1.736
	無	27	- 0.524	0.708	0.836
黒 船	有	12	- 2.944	- 0.134	0.407
	無	28	1.262	0.057	- 0.174
和 船	有	15	- 2.159	0.775	- 0.549
	無	25	1.295	- 0.465	0.329
鉄 道	有	17	- 1.422	- 0.295	1.909
	無	23	1.051	0.218	- 1.411
人 力 車	有	17	- 0.204	- 1.236	0.161
	無	23	0.151	0.914	- 0.119
通 り	有	22	- 0.081	- 1.543	- 0.626
	無	18	0.099	1.886	0.766
山	有	21	0.068	1.184	- 0.581
	無	19	- 0.075	- 1.308	0.642
海	有	14	- 0.858	- 0.105	- 1.817
	無	26	0.998	0.057	0.979



三代広重「横浜野毛伊勢山従海岸鉄道蒸気車ノ図」 明治7年5月

図 6 横浜野毛伊勢山従海岸鉄道蒸気車之図



二代豊重（国松）「武陽横浜神風樓賑之図」
明治10年9月

図7 武陽横浜神風樓賑之図

以前の遊郭とは建築様式がやや変化し、数階建ての和洋折衷様式になっている。

末期横浜浮世絵の第2次元解は説明率14%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「エキゾチック」を示す次元であったと考えられる。末期横浜浮世絵の第2次元解において、最もケース得点が低かったケースでは活発に取引される様子や労働者の様子が描かれ、横浜の繁栄を具体的に感じることが出来る。

一方、最もケース得点が低かったケースは日本初の鉄道や横浜駅を中心に賑わう町を描いている。西洋建築や設備の整った、伝統的な日本の都市とはかけ離れた、しかし、国際的で日本の中の先進都市である横浜が描かれ

ている。

末期横浜浮世絵の第3次元解は説明率13%で、反応の強いアイテムカテゴリーから考察すると「鉄道への興味」を示す次元であったと考えられる。末期横浜浮世絵の第3次元解において、最もケース得点が低かったケースは伊勢山大神宮からの眺めを描いたものである。一方、最もケース得点が高かったケースにしても他の高得点のケースでも画面の中央に鉄道が描かれており、数値からいってもどちらかといえば横浜という都市よりも鉄道に主眼があるといえよう。

この時期の特徴として日本の特に東京の西洋化、近代化が挙げられる。外国から入ってきた文化や建築様式は横浜だけのものではなく、首都東京に流れていったのである。この時期の横浜のイメージも国際貿易港でエキゾチックというものがあるが全体として曖昧である。異文化に対する衝撃は薄れ、確実に自分たちのものとして消化しており、そこには依然あった距離感は全くない。

4. まとめ

全体を通して共通している、横浜浮世絵のもつ横浜のイメージは「エキゾチック」な「活気」のある「港町」であることがわかった。しかし、時代区分ごとに「エキゾチック」なイメージを形成する異文化との距離感が異なっていることがわかった。前期では自分たちの世界とは異なる、完全な「異国」のイメージが強く、後期になると自分たちの世界の中での「異国情緒」となり、末期では横浜のイメージの中心を形作っていた洋風文化が横浜の専有物ではなくなったために、「港」の他

は横浜特有のイメージが曖昧になったことがあきらかになった。

とはいえ、この時代に培われた横浜のイメージは、現在も横浜やエキゾチックさ、日本の近代化を表現する資料として横浜浮世絵が幅広く使用されていることから残っているといえよう。

参考文献

青山宏夫 (1985) : 文学からみた「場所のイメージ」. 理論地理学ノート ,4,37-44

愛知学泉大学 (1991) : 横浜浮世絵の世界.

愛知学泉大学 : 愛知 ,53

阿部一 (1992) : 近代日本の教科書における富士山の象徴性. 地理学評論 ,65A-3,238-249

内田順文 (1986) : 都市の「風格」について. 地理学評論 ,59-5,276-290

神奈川県立博物館 (1979) : 集大成横浜浮世絵. 有隣堂 : 横浜 ,481

コータツツイ・ヒュー (1991) : 横浜 : 辺境の町 1859 ~ 1866. 横浜浮世絵の世界. 愛知学泉大学 : 愛知 ,53

斎藤多喜夫 (1993) : 幕末期横浜の都市形成と太田町. 19 世紀の世界と横浜. 横浜開港資料館 : 横浜 ,67-82

坂本満・戸枝敏郎 (1993) : 横浜版画と開化絵. 日本の美術 ,328,17-80

瀬川真平 (1995) : 国民国家をみせる. 人文地理 ,47-3,1-19

樽崎宗重 (1962) : 横浜絵序説. 横浜浮世絵, 朝日新聞社 : 東京 ,3-19

丹波恒夫 (1962) : 横浜浮世絵. 朝日新聞社 : 東京 ,

水津一郎 (1985) : 中世の説話と地理学. 人文地理 ,37-1,57-74

若麻績明里 (1996) : メディアにみる「居住地空間」へのまなざし. 地理 ,41-12,53-58

横田 洋一 (1989) : 横浜浮世絵. 日本歴史 ,361,51-71

横田洋一 (1989) : 横浜浮世絵. 有隣堂 : 横浜 ,71

米田巖・潟山健一 (1991) : 人文主義地理学の新しい潮流. 人文地理 ,43-6,36-55

福田珠己 (1996) : 赤瓦は何を語るか. 地理学評論 ,69A-9,727-743